

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

社会福祉学部・社会福祉学科
棟方 達也

作成日 2024年1月26日

1. 教育の責務

<p>1987(S62)年度より弘前学院大学文学部（当時、1学部のみ、短大家政科併設）に採用され、社会福祉学部開設に伴い転属となり、現在(2023年度)、在職36年度目となる。</p> <p>本学唯一の保健体育系科目担当専任教員として、全3学部に展開される講義科目及び実技科目の構成、運営を取りまとめる。他に、社会福祉学部の演習科目も3つ担当している。</p>				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
(W) スポーツ科学概論	1年	講義	前期	文系のスポーツ科学
(W) 基礎演習 I	1年	演習	通年	大学で学ぶための基礎
(W) 専門演習 I	3年	演習	通年	野外活動の計画、準備、実践、記録、報告
(W) 専門演習 II	4年	演習	通年	スポーツをテーマとする卒業研究
(L) スポーツ科学講義	1年	講義	前期	文系のスポーツ科学
(N) スポーツ科学概論	1年	講義	前期	文系のスポーツ科学
(N) スポーツ科学実技「Walking」	1年	実技	前期	タウンウォークと登山
(共通) スポーツ科学実技「スノースポーツ」	1年	実技	集中	スキー ※授業運営方法再検討のため今年度のみ開講せず
(共通) スポーツ科学実技「スクーバダイビング」	1年	実技	集中	NAUIオープンウォーターダイバー認定講習
(共通) スポーツ科学実技「シーカヤック」	1年	実技	集中	シーカヤックツアーと海浜キャンプ
(共通) スポーツ科学実技「アウトドアスポーツ：陸」	1年	実技	集中	サイクリングと登山
(共通) スポーツ科学実技「バスケットボール 1(A)」	1年	実技	前期	バスケットボールの基礎
(共通) スポーツ科学実技「バスケットボール 2(B)」	1年	実技	後期・集中	バスケットボールの総合的理解

2. 教育の理念

一般的な講義の他、演習と多種目の実技を担当しており、自身の専門性（体育・スポーツ史、アウトドアスポーツ各種及びバスケットボール：公認C級コーチ、B級TO）を最大限に活かす。特に実技科目においては、本学ならではのセールスポイントとして対外的にアピールできるよう試行錯誤を繰り返し、現在も学生主体を重視して改善を続けている。一方、自身にとって専門性に乏しい種目は、たとえ学生からのニーズがあっても開設しない。

1. 講義科目

現代社会に広く浸透し、文化的生活に多大な影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっているスポーツをいわゆる文系の視点からテーマを設定し、学生が新たなスポーツ像を再構築しうるよう導く。

2. 実技科目

・バスケットボール：自身が所有するJBA公認資格の技能と知識を反映させ、単なる実技習得に留まらず、総合的理解を目指す。

・アウトドア系：「下見に始まり下見に終わる」と言えるほど、実習地の徹底した事前調査をする。地元の実習地であれば、可能な限り現地に足を運び、あらゆる自然条件を加味した踏査をする。そうすることで、安全第一で学生の能力に即した確実な実習の成功を実現できる。

3. 演習科目

学生自らの興味関心、発想、アイデアを極力活かし、緻密な研究方法を指導する。

3. 教育の方法

1. 講義科目

プレゼンテーションソフトをフル活用し、テーマに沿った内容（キーワード、写真、図、表等）が印象深く伝わりやすように、また、関心を持って集中できるように工夫してスライドを作成するとともに、メモを取りやすいよう簡素化したスライドのプリントを毎回配布している。

2. 実技科目

・ウォーキング：1回約5kmのタウンウォーク、市内のウォーキングイベント参加、登山の3つの組み合わせで実施している。長時間の運動における水分及びエネルギー補給やペース配分を体得させる。事後報告書の提出。

・スノースポーツ：2泊3日の合宿形式。グループ分けにより、各自のレベルに則したレッスン体制をとる。複数の講師スタッフを要するため、他大学教員や県スキー連盟関係者等の外部スタッフを動員している。1人の講師が10人以上を受け持つことのないよう少人数の指導体制を心がける。

・スクーバダイビング：事前ガイダンス及びeラーニングの導入と2泊3日の合宿による。資格取得を目指すため、外部の公認スクールの協力を得て実施している。大学教育の担当に相応しい、信頼できるスクールを吟味している。

・シーカヤック：プロガイドの協力を得て、2泊3日の海浜キャンプによる実施。開設する実技の中で最も天候に左右されるリスクはあるが、自然との接点が多い分、アウトドア系実技の価値を最大に期待できる。事後報告書の提出。

・アウトドアスポーツ（陸）：脚力で陸上移動する2種目の組み合わせによる。長時間の運動における水分及びエネルギー補給やペース配分を体得させる。事後報告書の提出。

・バスケットボール1(A)：専門的な指導を受けた（部活動等）経験のない学生を対象とし、基礎知識の講義に始まり、実技では、基本的な技能を正しく理解して実践しようとする姿勢を重視している。ルーブリックを提示し、出席点や実技の評価ポイントの詳細を説明している。

・バスケットボール2(B)：専門的な指導を受けた（部活動等）経験のある学生を対象とし、実戦的な実技のみに留まらず、eラーニングによる審判資格の取得、T0の基礎の学習、トップリーグのゲーム分析、スポーツボランティア体験（Bリーグホームゲームボランティア）を含む。

4. 教育の成果

1. 講義科目

「授業評価アンケート」の結果を踏まえると、概ね学部・全学平均値に近い数値は出ているが、予習、復習への取り組みで文学部が平均値をかなり下回っている。教科書を使っていないためやむを得ないとする。

出席を取っていないが、全般に出席状況は悪くない。講義をしっかり聞き、ノートを取っていれば理解できる内容なので、欠席が多いと思われる少数の学生が、結果として試験で不可となっている。

2. 実技科目

実技なので出席を最も重視している。実技の予習、復習は、ほぼ不可能である。

理念に掲げた「自身の専門性を最大限に活かす」ことはできているが、専任教員が他にいないため、開設種目に偏りが生じていることは否めない。

特にバスケットボール2(B)でのスポーツボランティアの導入については、学生の反応も良く、地元のプロチーム関係者からも好評を得ている。

3. 演習科目

専門演習については、近年、受講者がいないため回答できない。

基礎演習Ⅰについては、学生自身が設定したテーマの研究を進めるための基本を徹底して指導しているが個人差が大きい。例年、前期の出席状況は非常に良く、ゼミのイベントにも積極的に参加するが、後期の後半になって脱落するものが時々ある。

5. 教育の改善

1. 講義科目

プレゼンテーションソフトによるスライド中心なので、過去を扱うテーマに関しては、解釈の検証や新説のチェックを怠らないよう努める。また、現代を扱うテーマに関しては、常に最新の情報（統計資料、写真、ニュース等）の活用を心がける。参考資料や書籍を事前に改めて紹介し、予習、復習に活用できるよう促す。

2. 実技科目

アウトドア系については、ほぼ、学外でのフィールドワークとなるので、今後も下見（事前調査）を怠らず、常に学生の安全を第一と考えつつ、無理のない達成を心がけたい。

バスケットボールについては、昨年度までの男女別クラス分けから、男女分けをしない形での大幅な内容改変を試み、概ね良好な結果を得たので維持していきたい。

3. 演習科目

特に基礎演習Ⅰについて、後期の脱落者が出ないように、早い段階から学生の状況を把握し、個別指導に注力する。

6. 教育の目標

授業によっては、「授業評価アンケート」の結果に現れにくいもしくは、評価項目に無い視点もあるので、そのような部分を個人的に補う方法を模索する。

実技においては、どの種目であってもその素晴らしさや楽しさ、面白さを伝えるために私自身が積極的に学生と共に活動することを心がけるとともに、本学ならではの授業展開を目指したい。

【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 試験結果
4. 実習後の報告書
5. ルーブリック